



◆演目紹介

半能「葛城 かづらき ～大和舞～」

出演 片山九郎右衛門 宝生欣哉 ほか

出羽国羽黒山の山伏の一行が、大和国葛城山の山中で吹雪に見舞われ時、葛城山に住む女が一夜の宿を申し出ます。庵では「標(しもと)」と呼ぶ薪を焚いてもてなし、葛城山と「標」にまつわる話を語ります。そして女は、自分の苦しみを取り去る祈りをしてほしいと言ひ出します。自分は葛城の神であったが、修験道の開祖、役(えん)の行者の依頼を受けて修行者のための岩橋を架けようとしたが架けられず、役の行者の法力で葛城に縛られ、苦しんでいることを明かします。葛城の神の願いどおり山伏たちが祈っていると、葛城の神が葛城に縛られた姿で現れ、月明かりが雪景色を照らす中、大和舞を舞うのでした。

能「船弁慶 ふなべんけい ～重前後之替～」

出演 片山九郎右衛門 宝生欣哉
野村萬斎 延岡の子ども

頼朝に疑惑を持たれ、源義経は鎌倉から追われる身となってしまいました。弁慶らと摂津国大物浦にたどり着きます。ここからは船に乗って西国へと向かうのですが、義経の愛人・静を連れていくのが困難だと弁慶が義経に進言。静は都に一人戻ることにしました。別れの宴で静は、白拍子舞を舞い、再開を願いながら涙に濡れながら義経を見送ります。静との別れを惜しむ義経だったが弁慶は船出を命じます。すると海上に出るや否や暴風に見舞われ、波の上に壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が出現。総大将だった平知盛の怨霊は、義経を海底に沈めようと薙刀をふりかざし襲ひ掛かります。弁慶は数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷します。その祈りの力によって明け方に怨霊は彼方の沖に消えてしまいます。

狂言「吹取 ふきとり」

出演 野村萬斎 ほか

いまだ定まった妻を持たない男は、願掛けに清水観世音を訪ねて一夜を過ごします。すると「八月十五夜に五条の橋へ出かけ、月とともに笛を吹け。その音に惹かれて女性が一人現れるだろう」と夢のお告げを授かります。ところが男は笛を持たず、もちろん吹くことも出来ず、そこで知り合いの笛の名手に代理を頼む。いよいよその日がやって来る。橋の上で笛を吹いていると、お告げどおり女が顔を小袖で隠してやってきます。ところが女は代理人の笛を吹く男に寄って行きます。さてさて・・・、妻が欲しい男と、ただ笛を吹くだけだったのに女に言い寄られる男の関係は。そして女が被った小袖を取った時、話はとんでもないほうに進んでいく・・・。

◆演者紹介

片山 九郎右衛門 (かたやま くろうえもん)

観世流シテ方。1964年九世片山九郎右衛門＝故幽雪(人間国宝)の長男として生まれる。祖母は京舞井上流四世家元の故井上愛子(人間国宝)、姉は五世井上八千代(人間国宝)。幼少より父、八世観世鍬之丞(人間国宝)に師事。各地の能公演のプロデュースなどに意欲的に取り組む。1997年京都府文化賞奨励賞、2003年京都市芸術新人賞、2003年文化庁芸術祭新人賞、2015年芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2008年から京都観世会会長、2011年に十世片山九郎右衛門を襲名。



宝生 欣哉 (ほうしょう きんや) 人間国宝

ワキ方下掛宝生流。1967年東京に生まれる。父・宝生閑(人間国宝)および祖父・宝生弥一に師事。8歳「猩々乱」で初舞台。父譲りの凛としたたずまいと存在感で、高い評価を受けている。海外公演にも多数参加。2000年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2023年能楽界では最年少で人間国宝の認定を受けた。



野村 萬斎 (のむら まんさい)

狂言方と泉流野村万蔵家。1966年東京に生まれる。父・二世野村万作(人間国宝)らに師事。3歳「鞠痕」が初舞台。4歳「いろは」で初シテ。1994年に二世萬斎を襲名後は俳優としてNHK朝ドラ「あぐり」のエイスケ役でお茶の間の人気者に。映画「陰陽師」で初主演。その後主演作品はドラマ、映画、舞台で多数あるほか、演出家としても才能を発揮して幅広く活躍。1999年に文化庁芸術祭演劇部門新人賞をはじめ狂言方、俳優、演出家として各賞を受賞している。



内藤家旧蔵の 能狂言面



宮崎県指定有形文化財指定されている内藤家旧蔵の能狂言面は、江戸時代を通じて、領内の平和と繁栄を祈願するために毎年開催されていた神事能において使用されていたと考えられるものです。安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍し、技量に優れ「天下一」の称号を授与された面打師たちによって作られた能面30点を含む72点の能狂言面は、その質と数はもとより、城下町であった延岡の歴史と文化を彷彿とさせる貴重な歴史資料といえます。この優れた能面を使用するのが「のべおか天下一薪能」の大きな特徴です。

延岡の こどもたちも出演



地元のこどもたちが日本を代表する出演者との共演は大きな特徴です。20年以上にわたって続けられており、地域の歴史文化を後世に繋ぐのはもちろん、日本を代表する伝統文化の継承にも大きな役割を果たしてきています。この公演の監修を務める片山九郎右衛門さんの発案で始められ、これまで子方として重要な役回りを演じるとともに、故片山幽雪さん(人間国宝)とも共演、福岡市の博多座で行われた特別公演「鞍馬天狗」では野村萬斎さんと共演しました。今回で16回連続、18回目となる公演では、「船弁慶」で源義経役を演じます。また公演の始まりには仕舞も4曲披露する予定です。片山九郎右衛門さんが直接指導した延岡の「こども能楽プロジェクト」の熟演にもご注目ください。

こども能楽プロジェクト 受講生募集

随時、このプロジェクトに参加するこどもたちを募集しています。次の出演者をめざすこどもたちを待っています。

座席配置図 席位置は変更になる場合があります



入場料

- ◆SS席(指定席).....10,000円
- ◆S席(指定席).....8,000円
- ◆A席(自由席).....5,000円

1 住所 (〒 -)

2 氏 名

3 電話番号

() -

4 ご希望のチケットの種類と枚数

席 枚

いただいた個人情報は本薪能に関する以外には使用いたしません。